

東京七座会だより 平成18年春号 (No.3)

吹く風も夏めいてきましたが会員の皆様にはますますご健勝の事とお喜び申し上げます。平成17年の東京七座会は6月26日に上野の『東京弥生会館』で開催しました。猛暑のなかではありましたが30名の参加があり賑やかな会となりました。出席者からは「ここエドゴダナァ〜」「来年もここにスベエ」「やはりオレンドは居酒屋でナグこういうトゴがエジャ」等の意見が聞かれました。来年もこの会場でと思っておりましたが今年いっばいで閉館との事、残念でなりませんでした。

当日は役所からの参加はありませんでしたが岸部市長からの『メッセージ』が届き披露させて頂きました。同封しますので一読願えれば幸いです。

なお、平成17年は役員改選の時期にあたり新役員を選出を行いました。別紙にて新役員の名簿掲載をしておりますのでご覧下さい。今後も七座会が順風満帆であるよう三ツ井会長のもとでやり抜く所存ですが会員皆様の更なるご協力をお願い致します。また、会員数は増減なく153名となっています。



平成17年総会懇親会『東京弥生会館』



平成16年総会懇親会『大塚鳥忠』

東京鷹楽会は恒例の九段下『ホテルグランドパレス』で行われました。当会からは10名参加と厳しいものでした。旧鷹楽会38名、小猿部会(七日市)39名、綴子会17名、坊沢会10名、沢口会6名、栄会11名に市長と役所関係の23名それに来賓19名を含めた約170名の出席がありました。いずれ鷹楽会の写真も掲載するつもりです。

七座のあれこれ

ふるさとはこの冬1973年(昭和48年)以来の大雪でした。

1月6日の24時間降雪量50cm積雪が125cmでJR奥羽線が4~7日の間は秋田ー東能代間で運転を見合わせる事態になっていました。なお、秋田市では12月としては88年ぶりに観測史上最高の積雪52cmを記録しています。(写真 左上:山の冬景色 左下:鷹巣中学校)



故郷を懐かしむと言えば郷土芸能が欠かせません。今泉・前山にもあることをまだ記憶にありますか。

【前山盆踊り】

前山地区の郷土芸能は、もともと「前山盆踊り」として伝承されてきたもので、江戸中期、村の旧家が集まって豊作と厄除けを祈願するために雷皇神社に奉納したのがきっかけだといわれています。踊りの構成は、佐竹氏が常陸の国から秋田入りしたときの行列のようすが原型になっているといわれ、大名行列や、獅子踊りなどで構成されていましたが、現在では「奴踊り」「獅子踊り」「じゃこ釣り舞」が伝えられています。最近では、踊り手の不足から、大人と子どもと一緒に踊っておりましたが高校生も参加することできややかな奴踊りになっているようです。じゃこ釣り舞は、釣りの好きな兄弟のしぐさをこっけいに演じる舞で、演技で釣り上げられる魚は本物の鯉が使われるなど、ユーモアたっぷりな演技と凝った演出に笑い拍手が沸き起こります。



【今泉駒踊り】

今泉地区では、14日と15日の二日間、夜6時30分から集落内の各所で郷土芸能「駒踊り」が披露されます。今泉の駒踊りは、藩政時代、佐竹藩主の巡遊を慰めるために踊られたものだといわれています。踊りは勇壮な武将と騎馬の姿を武芸的に表現したもので、踊り手は馬杵に馬頭をつけ、鎧、鉢巻姿で舞います。伴奏は笛と太鼓で、ぶっ込み、三拍子、もみじ奴、花奴、あやくずし、流し奴など七種類が伝えられています。踊り手は小学生から高校生まで、後継者の確保が課題となっているようです。



《後記》

今泉駒踊りは見たことがありませんでしたが、父が獅子踊りを母が奴踊りそれに母方の祖父が太鼓を担当していた当時の事が思い出されます。今はちょっと可愛らしくなった盆踊りですが、ふるさとを後にした者としてはいつまでも続けて欲しいと願うばかりです。(熊谷忠憲)